

セ タ ガ ヤ ボ ン テ ィ ア ネ ツ ト ワ ー ク



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

世田谷発! ボランティア生活発見マガジン
<https://www.otagaisama.or.jp/>

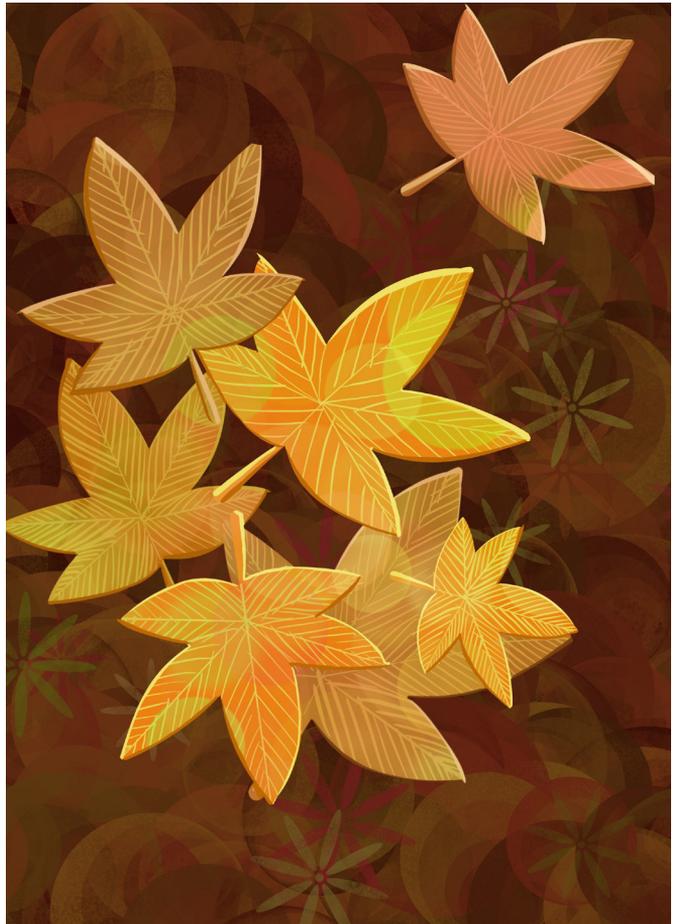
2022.11 No.223

今月のトピック

- 特集 P.2-5
老人給食協会ふきのとう～ 40周年にむけて～
- まちの市民力!! P.6
馬事公苑界わいコミュニティデザインプロジェクト『bajico (バジコ)』
- せたがやキラリ人 P.7
磯崎 寿之さん
- レポート P.11
「第47回雑居まつり」に参加しました

イラストレーター●安野壮 (Apollo)
世田谷に住みながら絵の勉強をしている見習いのイラストレーターです。

●わたしの世田谷
私が世田谷に住んでいて良いと思うことは緑のある公園などが多いところです。歩いていて飽きません。





特集

老人給食協力会ふきのとう ～ 40周年にむけて～

写真左からボランティアの前田基子さん、近藤清子さん、阿部温子さん、代表の平野寛治さん、職員佐野有未さん

9月27日(火)朝10時、気持ちのよい秋晴れのなか、上用賀にあるふきのとう本部で、配食用小型電気自動車『みずほ号』の贈呈式典が行われました。式典には、公益財団法人みずほ教育福祉財団、世田谷区長、世田谷ボランティア協会、東京ボランティア・市民活動センター、そして配食ボランティアのみなさんが集い、みずほ号の贈呈を祝福しました。

今回の贈呈は、公益財団法人みずほ教育福祉財団が全国の高齢者向け配食サービスを行っている団体に対し活動の一助に繋がるように行っている「配食用小型電気自動車『みずほ号』寄贈事業」の一環です。

新しい配送車にボランティアのみなさんは、目を輝かせながら、操作方法など興味津々。「電気自動車の寿命は10年くらいというから私もそれまではがんばろうかしら」と、設立当初からボランティアを続けられている阿部温子さんは茶目つ気たつぷりにおっしゃいます。



贈呈された電気自動車「みずほ号」

老人給食協力会ふきのとうは、来年40周年を迎えます。40年の節目を迎えるにあたり長年ボランティアに携わってきた、阿部温子さん、西岡啓子さん、前田基子さん、近藤清子さんにお話をたくさん聞かせていただきました。

老人給食協会ふきのとう

1983年に誕生！

1970年代、世田谷区桜丘にあった「こども冒険あそび場」で出会った地域のお母さんたちが、桜丘区民センター建築計画にあつたの署名活動の際に、地域には多くのお年寄りが独りで暮らしていることを知ったそうです。活動のリーダーだった故平野眞佐子さんは、「いずれ自分たちもその年代になった時、自分の子どもがそばにいるかはわからないが、地域で支え合っている仕組みがあればずっと生活していけるのではないか」と考えました。そこで、1985年よりお年寄りを対象とした会食会から活動はスタートしました。当初に活動のテーマとして掲げた「地域は一つの家族である」という考えは、老人給食協会ふきのとうと社会福祉法人ふきのとうの会両方にとって大切な理念として守られています。

会食活動から配食へ広がる活動

会食活動がはじまつて3年が経ったころ、だんだん会場に通うことが難しくなってきた方が出てきました。当時、お弁当屋さんや1人分のお惣菜の販売などはほとんどありませんでした。最初は、近くに暮らす方が届ける形に対応をしていましたが、そんな方が2人、3人と徐々に増えていき、ボランティアが配達を行うようになりました。そうすると、会食会と配食の両方を会場の厨房でまかなうことが難しくなり、それぞれの活動拠点を分けて毎週金曜日に両方の活動を行うようになりました。配食の活動は、1989年から毎日型の食事サービスへと成長していきましました。

毎日お弁当を一軒一軒に配っていると、徐々に「お掃除ができない」と「お買い物に行くことができない」といった各家庭の困りごとが見えてくるようになりまし

た。そこで家事のお手伝いとしてホームヘルプが1992年から始まりましました。また、元氣な男性がお弁当を頼んでいる姿を見て、「習ったら作れるようになるのではないか？」と思ったボランティアの気づきから男性料理教室が1998年からはじまりました。ボランティアに取り組む主婦の気づきや観点が、会食や配食活動以外の取り組みに広がっていきましました。

取り組みが広がる中で、代表である平野さんは、「地域で安定した活動基盤を作り、消え去ることのないシステムを作りたい」という長年の思いから、法人化に向けて動きましました。そして1996年、社会福祉法人の法人格の取得に至り、それ以降、社会福祉法人ふきのとうの会の姉妹団体として老人給食協会ふきのとうは活動を続けてきました。

食事づくりへのこだわり

ふきのとうの食事づくりでは設立当初より「季節のものや旬の野菜を取り入れる」「15品目以上を取り入れる」を大事にしています。初期は、ボランティアがレシピを持ち寄り献立を考えていましたが、現在は栄養士が考えています。とはいえ、みなさんの共通認識として、大鍋で煮た煮物や大きなお釜で炊いたご飯、昆布とおかのお出汁でとったお味噌汁やおつゆなど「独りでは作りにくいもの」「独りでは美味しくないもの」を提供することを大事にされています。栄養面だけでなく衛生面にも気を付けており、どんな食材でも必ず火を通してあります。ボランティアの近藤さんは、きゅうりですら湯通しすることに最初は驚いたそう。

また、ふきのとうのお弁当は一人ひとりに丁寧に寄り添うことも大切にしています。初めて問い合

わせのあった方には、アレルギーの有無や飲み込みにくさ、高血圧などを丁寧に聞き取り試食をお渡ししてから、注文されるかどうかを決めてもらいます。そして、調理の場で、一人ひとりの要望を整理してお弁当の管理を行うのがボランティアコーディネーターの仕事。ボランティアコーディネーターは、調理も配送も行うため、利用者さんとお付き合いは長い方だと10年以上。配達時の会話を通じて長年の体調の変化がわかるからこそ、細やかで、柔軟な対応ができるのはボランティア活動ならではです。

長年活躍するボランティアの存在

今回お話を伺ったボランティアのみなさんは、20年以上活動にかかわっています。それぞれ平野眞佐子さんを起点に仲間がひろがっていきましました。阿部さんは、平野さんのお宅の隣の隣に住んでいた



取材後に頂いたお弁当。とても美味しかったです。

ことと、お子さんが同級生であったことからつながり、設立当初より活動にかかわることに。西岡さんは、平野さんのお宅の向かいに住んでおり、家の草むしりをしていたところ「車あるんだったら1週間に1回でいいから配達を手伝ってくれない?」と言われ、配食活動が始まった頃から会に加わりました。

「みんな芋づる式に平野さんのところへ吸い込まれていくのよ。PTAが終わったら、ふきのとうという流れでみんな沼にはまっていくのよね」と、冗談めいておつ





思い出話に花が咲くみなさん

しやるみなさんのお顔には終始笑顔が絶えず、「会に入ったからお友達も増えたよね」と仲間の存在が長く続いた秘訣だったように感じました。お話を伺ったみなさん以外にも、20年以上活動を続けているボランティアは多くいらっしゃいます。

いま、ふきのとうの現場では

後日、鎌田にある調理の拠点「食事サービスサポートセンターだんらん」にお邪魔しました。終始流れる温かく穏やかな空気感のなか、てきぱきと調理が進んでいきます。

ふきのとうにとって近年の大きな危機は、新型コロナウイルス感染症拡大でしたが、配食サービスは、1度も活動を休むことなく続けました。「だってお弁当を待つている人がいるから止められないじゃない。それにわたしたちもふきのとうの活動に救われたのよね」とさらっと答えるみなさん。社会生活に大きな制限がかかる中でも、お弁当づくりへの使命感と、調理場に行けば仲間に出会えるという安心感は、ボランティア自身にとってもコロナ禍を乗り越える原動力だったそうです。

現在、配食ボランティアは45名で、平均年齢は69才ですが、コ

ナ禍になってからは、30〜40代のボランティアも増えてきたとのこと。ライフスタイルの変化が地域に目を向けるきっかけになったのかもしれない。その多くは、世田谷ボランティア協会のホームページのボランティア募集記事を見て知ったとのこと。平日の日中が活動時間であるふきのとうは、なかなか若い世代への活動に結びつきにくく、そうした世代は、今後の活動を繋いでいくための貴重な存在でもあります。

平野眞佐子さんがいなくては、決して始まることのなかったふきのとうの活動は、平野さん亡き後も、活動が途絶えることなく続きました。「小さい子どもがいる人、仕事を持っている人、男性、お年寄り、学生などいろいろな人を受け入れて枯れることがない組織にしたい」という平野さんの思いが、この先の40年後もボランティアに支えられながら脈々と受け継がれていくことを願っています。

取材：高居 真夕子
撮影：近藤 浩紀



馬事公苑界わい
コミュニティデザインプロジェクト
(愛称: bajico (バジコ))

まちの 市民力!!

取材・中部 香世

●
街の中で地域やそこで暮らす
人たちと一緒に活動している
団体を紹介します



bajicoは、馬事公苑近くのけやき広場を拠点に、「人と人とのつながり」「心の豊かさの再確認」をテーマに、地域のコミュニティ作りを進める取り組みです。NPO法人子育て支援グループ「amigo」と世田谷区都市デザイン課が中心となり、近隣住民や大学生ボランティアも参加して地域に密着したイベントを開催。近所の顔見知りを増やし、人と人のゆるいつながり作りを目指しています。

駆使する一方で、近所にチラシを配るアナログな方法も使い、世代を問わず幅広い層に向けて地道に広報しています。
10月10日には「シャルソン」が行われました。シャルソンとは「ソーシャルマラソン」の略で経堂が発祥。ゴールの時間とゴール地点が決まっているだけで、参加者は好きな場所から好きな時間にスタートしてOK。各自走れる距離を走って(歩いて)、ゴールを目指します。

午後2時には、お揃いのシャルソンTシャツを着たランナーが、けやき広場に続々到着。老若男女や障害の有無に関わらず、笑顔でゴールテープを切りました。

けやき広場では恒例のマルシェも開催。東京農業大学の学生やOBによる直売コーナー、近隣の飲食店の出店、趣味や特技を生かしたワークショップ、バンドの演奏など、参加者も通りがかりの人も、誰もが気軽に楽しんでいました。
bajicoの活動も3年目に入り、常連さんも増えたと、事務局の壬生さんは話します。例えば近隣マンションの住民グループによるカフェコーナー。「みんなにコーヒーをふるまっておしゃべりをしてほしい」という思いから対話を重ねて実現し、地域の方や子どもが集うカフェとして定着しました。
地域のつながりが薄いと言われる都会ですが、同じ地域に顔を知っている人が存在するだけで、世代を超えた住民同士の助け合いや、災害時の安否確認や共助の仕組みにもつながります。これから、地域の人々が気軽に立ち寄り、つながれるスポットとして、bajicoにご注目ください。





地域でのゆるい繋がりが大切

磯崎 寿之さん
いそざき としゆき

や
が
た
人
せ
た
キ
ラ
リ

世田谷を中心に活躍する
キラリと光る素敵なたを
ご紹介し
ます
取材●市川 徹

過ぎに介護の資格を取って、今度は介護事業に参入し、2011年にあんくるを立ち上げ、今に至ります。

磯崎さんは、訪問介護事業所「あんくる」を運営する傍ら、「ケアコミュニティせたカフエ」など様々な地域活動にも関わっています。なぜそうした活動に関わっているのか、お話を伺いました。

磯崎さんは母に障害があったことから、子どもの頃から介護やボランティアに馴染みがあったそう。1980年代当時はいじめが社会的な問題となっていたこともあり、20代の時にはなんと自らフリースクールの運営もしていたとか。しかし、経営的に大変だったのと、公教育も改善されてきたことから活動を解散。2000年に介護保険制度ができてから、30歳

武術を取り入れていること。知人を介して道場に通うようになり、古武術が生活動作と関係していることに気づいたとか。体の使い方や学ぶことで、簡単に身体を持ち上げられるようになるなど介助される人が楽なのだそうで、これまで介護者向けの稽古会も開催してきました。

2012年頃にケアに関わる人々が集まるケアカフェが日本で始まり、知見を集めるため磯崎さんも参加します。ここで福祉に詳しい世田谷在住のライター・中澤まゆみさんと協働し、地元でもやろうとせたカフエを立ち上げました。せたカフエでは、月1回のも

ちよりカフェや認知症カフェなどを開催することで仲間が増え、「RUN伴せたがや」「まち道楽」「三茶にサンタがやってくる」などの活動が生まれました。

「介護はダイレクトに喜ばれる仕事。利用者さんの生活をどう支えるか考えることが大切」と磯崎さんは言います。ただ、時給は上がってきてはいるが、つらいイメージが先行して楽しさを感じられていないのが課題だとか。一方で、ボランティア活動をする多くの方々とは知り合えて人脈が広がり事業の糧にもなる。介護に関わる人々を増やす意味でも、地域の中で相互にサポートし合えるようなことができるといいと話します。

磯崎さんのお話を聞いて、地域に関わる人たちがまぜこぜになることの大切さ、そしてそれがひいては地域福祉の向上に結びつくのではと感じました。

ご相談ください

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをおつなぎする橋渡しをしています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人と会ったり、集まったりすることが難しい状況ではありますが、困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できる

のかわからないという方は、ご相談ください。

電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか一緒に考えます。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター
TEL 5712・5101

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組みボランティアを探して紹介しています。

現在は、新型コロナウイルス感染症防止のため、オンラインでの学

習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重してやっています。お気軽にご相談ください。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 高居・原口
TEL 5712・5101
takai@otagaisama.or.jp

ボランティア求む

東小 小1男の子の遊び相手募集

小1の男の子と、土日や祝日に遊んでくれるお兄さんボランティアを募集しています。お母さんは視覚障害を持っており、外に連れて行って遊んであげることができません。本当はキャッチボールやサッカー、スケートボードをしたいの、家で一人で遊ぶことが多いため、月に1～2日、お休みの日に近くの公園で一緒に遊んでくれるとうれしいです。元気なお兄さんの応募をお待ちしています！

●日時／祝日を中心、月に1～2回(午前中希望1～2時間ほど)
●場所／自宅(大蔵)に迎えに行き、そこから徒歩10分程度の公園、大蔵運動場など
●交通／二子玉川駅または成城学園前駅からバスで10分ほど
●条件／大学生くらいの元気なお兄さん。男の子の自宅までの交通費支給

●問合せ／玉川ボランティアピュ
TEL 3707・3528
tamabora@otagaisama.or.jp

東 寺子屋の開設準備を手伝ってください

『Café de 寺子屋』は全国のカフェをお借りして、大学生が、小学生から高校生の自学自習を支援する寺子屋を開いています。開設準備から一緒に活動してくれる大学生を募集しています。自立と協調を大切にできる人や理想に向かって進んで挑戦し、責任感を持つて主体的に行動でき、周りに目を向け、多様な価値観を受け入れ

ることで、お互いに成長できる方大歓迎です。
●日時／毎週火または木曜18時～20時
●活動場所／コマダ珈琲店駒沢公園店(世田谷区深沢4・5・13)
●問合せ／砧ボランティアピュ
口準備室 担当 久我
TEL 6411・4007
knutabora@otagaisama.or.jp

東 柴犬のお散歩ボランティア募集（用賀・瀬田）

瀬田にお住まいの柴犬の飼い主がケガをしまい、朝夕行っていた毎日のお散歩ができなくなりました。柴犬は7才の女の子、約10kgです。人が大好きで、犬にはちょっと厳しい性格です。元気がいっぱい、お散歩が大好きです。トイレが外でしかできないため、雨でも行きます。犬が好きで、飼った経験のある方

お待ちしています！ 詳細はお問い合わせください。

- 日時/月々金曜朝6～9時の間 夕方17時～19時半(家を出る時間) 週1回から朝夕どちらかでも可
 - 条件/交通費支給(上限あり)
 - 問合せ/玉川ボランティアビューロー
- TEL 3707・3528
tamaborara@otagaisama.or.jp

東 自宅最寄り駅から後楽園駅までの登下校に付き添ってくださる方募集

世田谷区内在住の知的障害のある女の子が、自宅最寄り駅(田園都市線の駅)から後楽園駅近くの学校までの登校または下校に付き添ってくださる方を必要としています。

女の子は、高校2年生で大人しい性格です。電車での移動には慣れており、乗り換える駅や路線などは理解している、基本的に彼女が移動するのを側で見守っていただきます。詳しくはお問合せください。

- 日時/ (登校) 火・水・自宅最寄り駅 7時40分ごろ待ち合わせ、9時ごろ学校着 (下校) 金・17時に学校前にお迎え、18時ごろ自宅最寄り駅着
 - 場所/自宅最寄り駅(田園都市線の駅)と後楽園駅近くの学校の間
 - 条件/女性、交通費支給
 - 問合せ/玉川ボランティアビューロー
- TEL 3707・3528
tamaborara@otagaisama.or.jp

有償スタッフ募集

小京東 ひとり親家庭の子どもの遊び相手・宿題等の見守り・夕食作りなどして下さる方募集

世田谷区内の家庭にお伺いし、子ども(保育園〜小学生)の遊び相手、宿題等の見守り、夕食作りなどをしてくださる方を探しています。

親御さんが多忙や不調で余裕がなかったり、お子さん自身がサポートを必要としているご家庭で、お子さん、親御さんともに安心して楽しく過ごせるよう力を貸していただけたら幸いです。学生さんからシニアの方まで大歓迎です！ 詳細は電話か、ホームページか

- 日時/月々金曜日17時～21時 2～3時間程度。週1日程度から。ご家庭ごとで異なります。
 - 場所/世田谷区や近隣区
 - 交通/小田急線・京王線・田園都市線・東横線など
 - 申込み/お電話かHPから
 - 問合せ/NPO法人子どもどもソーシャルワーク協会 担当 水野
- TEL 5727・2133
http://www.jcsw.jp/

講座・その他・募集

小 もっと語ろう不登校 Part 2/2

これまで26年にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めの方も、お誘い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

- 日時/11月12日(土) 14時
- 場所/NPOフリースクール僕

- ランチ(代田4・32・17)またはZOOM会議にて
 - 交通/梅ヶ丘駅徒歩10分
 - 条件/事前申し込み制
 - 問合せ/世田谷子どもいのちのネットワーク第3分科会「もっと語ろう不登校」担当 高橋
- 090・3905・8124
fbhtoru@yahoo.co.jp

「セボネ」は皆様の声を集めて制作しています。ボランティア募集、イベントなど情報をお寄せください。ホームページから情報を投稿できます。

講座・その他・募集

東 大人の発達障がいのある方とかわるボランテニア養成講座(全3回)

発達障がいのある方と関わるボランテニアをしませんか? 講座内容は、発達障がいについての講義、当事者の方のお話、ボランテニアについて、世田谷区の障がいのとらえ方と取り組みをご紹介します。

- 日時/①11月18日、②11月25日、③12月2日(金) 13時半~16時
- 場所/玉川ボランテニアビューロー
- 交通/二子玉川駅徒歩5分

小 梅丘ビューロー手作り市開催

梅丘ボランテニアビューローを拠点に活動しているボランテニア・グループと協力して、手作り作品の販売会を開催します。バッグやアクセサリー、小物入れ、クッションカバー、手編みのマフラーなど、素敵な商品が並びます。一部、洋服・雑貨などリサイクル品も販売予定です。入場は予約制ではありませんが、当日、ご来場が集中した場合は入場制限を行な

- 参加費/700円(資料代)
- 定員/先着16人
- 申込み/電話、FAX、メールでお申し込みください。件名を『発達講座申込み』とし、①氏名②住所③連絡先④年齢(年代)⑤何を見て を明記

- 問合せ/玉川ボランテニアビューロー
- TEL 3707・3528
- FAX 3708・3058
- tamborara@tagaisama.or.jp

います。ご了承ください。

- ※提供品はお受けできません。
- 日時/11月12日(土) 10時半~15時
- 場所/梅丘ボランテニアビューロー1階
- 交通/梅ヶ丘駅徒歩5分
- 問合せ/梅丘ボランテニアビューロー
- TEL 3420・2520
- umeborara@tagaisama.or.jp

小 子どもの声を聴きつけた50年 内田良子(心理カウンセラー) 講演会

「おなか痛い」…ツライ気持ちや身体の不調に出る子どもたちがいます。どのように子どもの声を聴いたらいいでしょうか? 病院、保健所、相談室「モモの部屋」などで子どもや親の思いを受けとめてくれた内田さん。不登校・ひきこもりなど、多くの子どもたちと過ごした50年を振り返り、いま私たちにできること、考えたいこ

- とをお話いただけます。ぜひご参加ください。
- 日時/12月3日(土) 14時から(受付は13時半から)
- 場所/船橋まちづくりセンター活動フロア1
- 交通/千歳船橋駅徒歩20分
- 参加費/200円
- 問合せ/バージの会 担当 稲垣090・8114・8113

Aシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランテニア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAシステムによるマッチングサイト(世田谷版GBER)で結び付け、ボランテニア活動を支援します。

詳細は左記QRコードからご覧ください。



OTAGAISAMA VIEW

小

今回でラスト 秋の代田ビューローバザー

代田と梅丘のビューロー統合のため、代田でのバザーは今回で最後となります。少しでも多くの方にご来場いただきたいのですが、今年も昨年と同じように、密にならないよう予約制でゆったりお買い物いただけます。1枠40分で14名、事前申込者限定です。ラストバザーですので、お楽しみタイムの枠も設けています。何がお楽しみかは入場時に発表します。代田でのラストバザーぜひご来場ください。

※事前予約制、入場前に検温、手指消毒、マスク着用等 感染防止にご協力ください。

11月25日(金)	11月26日(土)
① 10:30～11:10	⑧ 10:30～11:10
② 11:15～11:55	⑨ 11:15～11:55
③ 12:00～12:40	⑩ 12:00～12:40
④ 12:45～13:25	⑪ 12:45～13:25
⑤ 13:30～14:10	⑫ 13:30～14:10
⑥ 14:15～14:55	
⑦ 15:00～15:40	

お楽しみタイムは
⑦枠目にあり
1枠40分
定員各回14名

お楽しみタイムは
⑩⑪⑫枠目にあり
1枠40分
定員各回14名

●バザーボランティア募集

値付けなどの準備ボランティア
(11月14日～24日)

チラシを広報板に貼る(11月16日頃)・剥がす(11月25日頃) 作業のお手伝い、当日運営や片づけをしてくださるボランティアさんを募集します。詳細はお問合せください。

●バザー提供品受付に関して
11月7日(月)～12日(土)
13時～16時

新品またはそれに近い洋服・バッグ・食器・贈答品・アクセサリなどに限ります。

●事前予約受付日

11月19日(土) 10時半から電話のみで受付(1回のお電話で申し込めるのは、1名1枠のみ)。

お楽しみタイム事前申し込みは、
⑩⑪⑫(⑦除く)のどこか1枠とさせていただきます。ただし、当日空きがあれば、お楽しみタイム2枠目も申込可とします。

●場所 代田ボランティアビューロー1階と2階

●問合せ 代田ボランティアビューロー

TEL 3419-4545

「第47回雑居まつり」に参加しました!

10月9日(日)羽根木公園で開催された「第47回雑居まつり」に、世田谷ボランティア協会のボランティア・市民活動推進部、福祉事業部、せたがやチャイルドラインが参加してきました! 推進部は、協会の紹介、バザー品やニットカフェの手作り品の販売の他、子どもたちが楽しく遊べるわなげコーナーも設営しました。

福祉事業部は、リサイクル・バザーとポッチャ体験のブースで参加しました。「ぼーとせたがや」と「パートナーセンター」の活動に参加している障害当事者の皆さんが売り子やインストラクターとして、来てくれた人たちと一緒に楽しみました! せたがやチャイルドラインは、活動の紹介や、手作り品、八女の物産品販売を行い、お越し頂いた方が活動を知るきっかけに繋がったと思います。

世田谷ボランティア協会に興味を持って下さった方や、世田谷の多くの団体の皆さまと交流できて嬉しかったです。



たくさんの方が訪れた
せたがやチャイルドラインの
ブース



毎年恒例のわなげコーナー
子どもたちが楽しんでくれました



ぼーとせたがやの方がお店の
お手伝いをしてくださいました

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

●「市民が主役」のボランティア活動の拠点●

- 世田谷ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811
- 梅丘ボランティアビューロー 〒154-0022 梅丘1-8-9 TEL (3420)2520 FAX (3706)2854
- 代田ボランティアビューロー 〒155-0033 代田2-20-6 TEL (3419)4545 FAX (3412)3210
- 玉川ボランティアビューロー 〒158-0094 玉川2-1-15 TEL (3707)3528 FAX (3708)3058
- 砧ボランティアビューロー準備室 〒157-0066 成城6-3-10 TEL (6411)4007 FAX (6411)5888

●いのちを大切にするとところ「ふらっと」&「with」です●

- ケアセンター「ふらっと」 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5105 FAX (3410)3813
- ケアセンター「with」 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋1F TEL (6805)4715 FAX (6805)4718

●くらしを紡ぎ、わかちあう「結」と「連」●

- ケア相談センター結(ゆい) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (5433)2830 FAX (6383)2156
- ケアステーション連(れん) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6805)4716 FAX (6805)4718

●障がいにとまなう「困った！」を話せるところ●

- 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋 2F TEL (6804)0405

●でんわだから、はなせるネ！ 18さいまでのこどもせんようでんわ●

- せたがやチャイルドライン こどもせんようでんわ TEL (3412)4747 0120-99-7777(フリーダイヤル)
*事務局は世田谷ボランティアセンターにあります

拠点は今… 今月のおススメ！

◆センター&ビューローより

代田ボランティアビューロー最後のバザーを11/25(金)と26(土)に、玉川ボランティアビューローで11/18(金)から大人の発達障がいのある方とかかわるボランティア養成講座を開催します。

◆ふらっと& with より

カレンダーも残すところ2枚！少しだけ雑居に参加でき、少しだけ外出が増え、研修生も増え、新しい秋の風が吹き込んでいます。

◆結・連より

介助を必要としている人がいます！ 世田谷を走り回っています。ヘルパー募集継続中です！

◆チャイルドラインより

11月8日(火)にチャイルドラインカードの発送準備をします。カードは11月中に世田谷区の小学校からの高校までの子どもたちに届ける予定です。

編集後記



■今回の特集のふきのとうの方々と記念写真を撮影しました！(近藤)

- 発行
社会福祉法人
世田谷ボランティア協会
〒154-0002
世田谷区下馬2-20-14
TEL 03-5712-5101
FAX 03-3410-3811
- E-MAIL
setabora@otagaisama.or.jp
- ホームページ
<https://www.otagaisama.or.jp/>
- 発行人
横山 康博

